

青森のおへそから

白鳥まつり8年ぶり開催



町内外の来場者が歓声

平内町の「白鳥まつり」が1月23日、24日の2日間にわたって、旧浅所小学校と浅所海岸で開催された。同まつりは、鳥インフルエンザ流行に伴う野鳥への餌付け自粛をうけ2009年から開催を休止していたが、同町の「ハクチョウのまち再生事業」の実施によって8年ぶりに復活した。

天候に恵まれた初日は、町内外から多くの人々が来場した。浅所海岸では、約200羽の美しい白鳥の群れがお出迎え。来場者らは「うわーきれい」「かわいい」と歓声をあげながら白鳥を写真に収めていた。

メイン会場の旧浅所小学校では、町伝統の芸能発表会やカラオケ大会などが開かれたほか、「ハクチョウのまちフォトコンテスト」の応募作品146点が展示された。

2日目は、「白鳥の鳴きマネコンテスト」や「手裏剣戦隊ニンニンジャーショー」などさまざまなステージイベントが開かれ、多くの家族連れでにぎわった。また、「ハクチョウのまち」を考えるシンポジウムが開かれ、地域住民や大学生らが意見を交わした。

さらに、このまつりから町民の有志らによる「白鳥ガイド」が本格的に始動し、来場者に白鳥の生態や、特別天然記念物に指定された経緯などを説明。初めてのガイドを終えた須藤節子さんは「緊張した。これからも白鳥のことだけでなく、平内のことも知ってもらえるように活動していきたい」と語った。



平内町×青森大学×青い森鉄道
ニュースレター

- 編集・発行
青森大学地域貢献センター
- 連絡先
青森市幸畑2丁目3の1
- 電話
017(738)2001



「青森のおへそから～私の平内、あなたの平内」のFacebookページは、右のQRコードからご覧ください！



青森のおへそから

若者ネットワークづくり 町の未来を語る



「白鳥まつり」の一環として、「ハクチョウのまちシンポジウム」が1月24日開かれ、認定NPO法人アサザ基金の飯島博代表理事が「～自然も地域も元気に～霞ヶ浦アサザプロジェクト」と題して基調講演した。飯島氏は地域のコンテンツをブランド化するべきと提言し、他地域の活用例を紹介しながら、地元の人々が地元のために行動する気概や、経済の地域内循環が重要であると指摘した。

講演に続き、ワークショップ「私が描くハクチョウのまちづくり 10年後の姿を考えよう！」が行われ、参加者は「漁業と観光」「子どもと教育」「ハクチョウや渡り鳥の生息地とまちづくり」の3グループに分かれて、地元の未来について真剣に討論を繰り広げた。並行して、「ひらいたの語り場」グループが「未来への地図づくり」を行った。

参加者は地元の若者から年配の人までさまざまで、「平内に対して、漠然とした不安があったが、ワークショップ等で話し合うことで平内も頑張れば可能性があるのではと思った。またこういった機会があればうれしい」「地図に書くことで町の隠れた名店が実はたくさんあることが分かった。年間を通してイベントを考えていくことが必要」といった意見が出ていた。



ハクチョウのまちシンポ／語り場マップ作成

ハクチョウのまち再生・白鳥まつり事業
藤公晴実行委員長

8年ぶりの開催となった白鳥まつりは、町内外の関係者のご協力ご支援のもと、おかげさまで天候にも恵まれ、約1800名の来場者を迎え成功裏に終わることができた。このまつりを今後「ハクチョウのまち」をアピールするためのイベントとして位置づけるには、例えば、地元の小中学生が学習の一環としてハクチョウのまちづくりに関わり、それを広く共有する機会になればと願っている。まちづくりの担い手育成は家庭や教室から始まる。今後いろいろな方々と話し合いながら精進したい。



阿部康平（社会学部3年）：浅所海岸は、観光客や地元住民にとって、とても魅力的なスポットであることを再認識しました。私も小さい頃は毎年家族と浅所海岸を訪れて、白鳥にえさをあげて楽しんでいました。すべての人にとって浅所海岸が憩いの場となりますように。
工藤和也（社会学部2年）：地域特有の観光名所や廃校の新たな活用の様子を、体を通して学び、地域の集いの場となったことに感動した。青森大学×平内町×青い森鉄道のコラボ活動で、平内という町を知ってもらえるチャンスはたくさんあるはずです！
坂本風磨（社会学部2年）：こうした地域の特性を生かした催しを企画し、さらに発信していくことが、地域の諸問題を解決する糸口になるのではないかと感じた。
杉田拓也（社会学部3年）：白鳥などの平内町の魅力を発信していくためには、祭り等のイベントが大事だと実感することができた。実際に県外から偶然、祭りに来た方がいた。町を知ってもらえる良い機会です。
神圭介（経営学部3年）：平内町の方が白鳥を大事にしていたことを、このイベントで改めて考えさせられました。朝日新聞等の全国紙にも掲載されていたので、平内町、そしてこの祭りをアピールできたのではないかと思います。白鳥まつり、来年以降も開催してほしい。

学生の視点

あ
た
の
平
内
私
の
平
内



1月23日、24日の両日開催された白鳥まつりで、「白鳥ガイド」（ボランティア）が本格的に始動した。

白鳥ガイドは、平内町教育委員会が国の特別天然記念物に指定されている「小湊のハクチョウおよびその渡来地」における歴史や景観を、町内外・観光客に知ってもらうため、2015年度より実施。11月から研修を重ねてきた町民有志ら6人が白鳥ガイドとして活動している。

ガイドの初陣となった白鳥まつりでは、「白鳥は雑食性で何でも食べる。寝るときは羽毛に顔を埋めて、片足で寝ている」といった白鳥の生態や、浅所海岸について、約30分間にわたりガイドを行った。初めてのガイドを終えた須藤郁子さんは、「まだまだこれからです。白鳥のことだけではなく、平内町のこともより知ってもらえるように活動していきたい」と意気込みを語った。

▼白鳥ガイド 活動期間は1月～3月上旬で祝日、年末年始を除いて基本的に毎日対応。申し込みは10日前まで。申し込み、問い合わせは平内町教育委員会生涯学習課（電話017-755-2565、ファクス755-2078）へ。

清川繁人実行委員長

学生諸君は「白鳥まつり」に参加しイベントの全体像を把握するとともに、まつり参加者にインタビューすることで、平内町の人々のハクチョウにかける深い思いを実感したようです。来年は、ハクチョウに対する知識を深めたり、さまざまな企画の立案や運営に参加するなど主体的に関わることで、「ハクチョウのまち」PRの一翼を担っていただきたいと思います。

ホタテ味わい海岸でふれ合い

かなりの寒さにもかかわらず、浅所海岸には白鳥を一目見ようと大勢の人が集まっていた。会場には、ホタテの味噌汁を無料でふるまうコーナーや、地元でとれた新鮮な魚介類を販売しているコーナーもあった。海岸には白鳥だけでなくカモメなども来ており、訪れた人は白鳥にえさをあげたりして触れ合いを楽しんでいた。



ボランティア「白鳥ガイド」本格始動

第2回フォトコン、応募作倍増



白鳥まつりに合わせて「第2回ハクチョウのまちフォトコンテスト表彰式」が行われた。前回に比べて、より広い範囲からより多くの作品を集めるために、平内町以外で撮影した作品も募集した結果、応募数は昨年の75作品から倍増、146点に達した。また、できるだけ子どもにも親しんでほしいという思いから「こども大賞」も設けている。

最優秀賞は朝日を浴びながら白鳥が舞う様子を捉えた作品で、朝日によって水面が黄金に光り優雅な白鳥をさらに美しく演出しているようにも見える。白鳥が水草を食べようとしている様子を捉え、可愛げのある姿をきれいに収めていた。青森大学からも中村和彦准教授が佳作で入選。幻想的な夜の白鳥を捉えた作品だった。

応募作は旧浅所小学校の体育館に掲示され、鑑賞する多くの人でにぎわっていた。

青森大学ブース盛況

白鳥まつりのメイン会場である旧浅所小学校には、青森大学もブースを出展した。平内町や青い森鉄道との連携プロジェクトに基づく、2015年の「銘酒とスイーツのタベ」や、「ひらなのお月見」、「語り場」などのイベントを紹介。青森大学生が作成したニュースレターの一覧も展示したほか、青森市で青森大学生が開く「鍋横綱コンテスト」の予告ポスターなども掲示した。休憩コーナーに付せん紙で感想を書いてもらうコーナーもあり、1日目、2日目とも多くの感想が寄せられた。また、ブース内のテーブルで地元の若者が語り合う光景も見られた。



来場者の声(付せん紙から・一部)

- 平内町に住んでいながら知らないことが多くあったように感じてビックリしました。様々な活動があったのでぜひ参加してみたいと思いました。
- もっと頑張ってください。地元出身の女子プロレスラー初めて知りました。
- 東京から来ました。地元の皆様やボランティアの方がとても親切でした。白鳥もとてもかわいかったです。今度は、え付けをしたいです。ありがとうございました。
- 旅行の途中にパンフレットを見て立ち寄りしました。この街で白鳥を通して子供たちがいろいろ観察を継続していることがとても驚きでした。地域振興として、地域の特性にほこりをもち、良い取り組みだと感じた（茨城県、50～60代夫婦）
- なつかしい（OBより）
- 一年間を通して平内町からさまざまな事を発信していることが町民にとってとても元氣になります。また応援したいと思います。ありがとうございました。
- 平内について、こんなにいろいろな取り組みをしたいと若い人が考える場があるのはいいなと思います。これからも頑張ってください。
- 平内をもっと知ってみたいと思いました。展示も面白かったです。
- 白鳥のことがよく分かった。清川さんの写真が良かった。お月見があるのを初めて知った。
- しろいとり（白鳥）を初めて今日見えています。しろいとりは素晴らしいです。しろいとりを見た人は幸せになると思います。今日は寒くて楽しかったです。来年も見に来ると思います。（オテゴ）
- 私は初めて日本に住んでいる。初めて白鳥を見た。面白かった。ありがとうございます。また来ます。（カナ）

当ニュースレターは今回が最終号となります。2年間のご愛読、ありがとうございました。